



2016（平成28）年10月20日  
日本女子大学

## 第12回「平塚らいてう賞」受賞者を決定

<顕彰> 日本女性外科医会

<特別> NPO法人 平塚らいてうの会

日本女子大学は本日、研究者・学生の顕彰・奨励を目的とした第12回「平塚らいてう賞」の受賞者を決定いたしました。

本年は顕彰5件と奨励3件の応募がありました。厳正な審査の結果顕彰1件、特別1件を決定しました。受賞された方を以下に紹介します。

### \* 「平塚らいてう賞」

女性解放や世界平和のための活動に人生を捧げた平塚らいてう氏（1906年日本女子大学校卒業）の遺志を継承し、男女共同参画社会の実現および女性解放を通じた世界平和に関する研究や活動に対する顕彰と奨励をはかることを目的として2005年に創設した賞。

### ■ 受賞者

顕彰（1件） 日本女性外科医会

特別（1件） NPO法人 平塚らいてうの会

### ■ 贈賞式

本年11月26日（土）14時から、日本女子大学目白キャンパス新泉山館にて行います。

### <選考委員>

佐藤 和人 [日本女子大学学長]  
出淵 敬子 [WILPF（婦人国際平和自由連盟）日本支部副会長、日本女子大学名誉教授]  
倉田 宏子 [城西国際大学客員教授、日本女子大学名誉教授]  
羽田 澄子 [記録映画作家]  
大沢 真知子 [日本女子大学 現代女性キャリア研究所所長]

—この件に関するお問い合わせ先—

日本女子大学 広報課内「平塚らいてう賞」事務局  
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1  
Tel:03-5981-3176 Fax:03-5981-3164  
E-mail:raiteu@atlas.jwu.ac.jp  
URL:http://www.jwu.ac.jp/st/grp/raiteu/

## 第12回「平塚らいてう賞」選考委員発表コメント

第12回受賞者の選考にあたり、私どもは候補者の業績を広く、世界の女性のさらなる解放、問題の解決、平和問題や地域社会への公正な目配りと着実な行動の継続という観点から論議し、以下の業績に対して各々「顕彰」「特別」に値するとの結論に達しました。

ご業績の特色や褒賞に値する観点は下記の通りです。

### < 顕 彰 >

受 賞 者 : 日本女性外科医会

研究テーマ:

日本医学会分科会における男女共同参画を目指した JAWS の活動

受賞理由 :

最近の日本では医師国家試験の合格者の約3割が女性であり、外科医志望の女性も増えつつある。しかしその前途は厳しく、医師であり続けようとするならば、環境改善、育児支援、勤務形態の柔軟化、産後の復職支援などが必要になる。そのような立場にある女性外科医のワーク・ライフ・バランスをサポートし、継続就労を推進するために、2009(平成21)年「日本女性外科医会」(略称JAWS)を立ち上げた。

以上は代表世話人冨澤康子氏が書いたものの要約であるが、このような信念ともいえる考え方が核心にあるからこそ、日本女性外科医会が困難を乗り越えて改革を進めた実績があると思われる。その着眼と工夫とは新鮮で人間社会の現実に

根差しているものであると同時に、非常な活力と説得力を持つ。平塚らいてうが希求した男女共同参画を目指す活動は、顕彰にふさわしい。

< 特 別 >

受 賞 者 : NPO 法人 平塚らいてうの会

研究テーマ:

『平塚らいてうの会紀要』(2008～)によるらいてう研究成果の発表

受賞理由 :

2001(平成 13)年に発足した「NPO法人平塚らいてうの会」は、『ニュース』の発行や「らいてう講座」の実施、『青鞥』原本の蒐集、『平塚らいてうの会紀要』の刊行などを通して、らいてう研究の促進及びらいてうの思想の普及に多大な尽力をされた。『紀要』に掲載された未発表資料は貴重であり、とりわけ従来不分明であった戦時中の思想的模索及び戦後の平和思想の解明は、研究を大きく進展させた。

また、2006(平成 18)年には信州の上田に「らいてうの家」を開設し、本年で 10 周年を迎える。この記念施設の運営を通して、らいてうの存在を改めて世に知らしめ、らいてうのめざした平和社会を現代に実現させるべく活動してきた功績はきわめて大きい。

このような際立った功業に対し、「特別」を贈呈することとした。